

悠久

第 36 号



新疆ウイグル自治区：トルファン 交河古城遺跡

本号の内容

- | | | |
|-----------------------|--------------|----------|
| ① 日中国交正常化四十周年を前に思う | 岡山県立岡山朝日高等学校 | 校長 平井 信雄 |
| ② 西安市学生交流団を迎えて | 矢掛町立矢掛中学校 | 校長 川上 公一 |
| ③ STUDENT EXCHANGE 今昔 | 岡山県立総社高等学校 | 教頭 白神 敬祐 |
| ④ 大きな成果、更に交流継続を | 大連第一中学訪問団 | 団長 王 景 東 |

● November
2011

日中国交正常化四十周年を前に思う



岡山県立岡山朝日高等学校 校長

平井 信雄

二〇〇七年、日中国交正常化三十五周年、岡山県と江西省との友好提携十五周年の節目の年、教育文化訪問団の一員として中国を訪れた。上海では万博の開催目前ということもあり、街は活気に溢れ、外灘からの眺めはさながら未来都市のように近代化がなされ、南京東路を歩く日本人の姿も多く見られた。江西省の南昌にある師範附属小学校と外国語学校を訪問した折りのこと、自分の考えを人前で堂々と話す子どもたちを目の当たりにし、内向き思考になりつつある日本の若者が直接交流できればよいのではないかなどと考えていた。

今や日中間に年間四百万人の往来があると言われる。これも一九七二年に国交正常化がなされたからである。周恩来総理が最初に井戸を掘った人の苦労は忘れないと、岡崎嘉平太氏の労苦に触れたことから、当時の両国を取り巻く状況はひととおりではなかったであろう。それでもなお二人の強い信念と親交は国を動かす、そのお蔭で両国は国交がないという不安定な状態を脱することができたのである。

岡崎嘉平太氏の中国との関わりの原点は、岡山中学時代に寄宿生活を共にした中国人留学生との交流にあったとされる。以後中国とは信義に基づく関係を発展させてゆく。この少年期の体験があったればこそ、戦前、戦中は言うまで

もなく、戦後の困難な状況においても、隣人を愛し、最後まで信念を貫き通すことができたのではないであろうか。

岡山中学の後身である朝日高校も以前から中国との人材の交流に関わってきた。昨年に続き今年も、大連の高校と交流を果たしたが、「一緒に過ごした友だちと再会でき、友情を確かめ合った」という中国の高校生の感想や「この体験から学んだことをより多くの人に発信していきたい」とか、「私がどのような活動をすれば日中両国の発展に尽力できるかを考えていきたい」という本校生徒の感想を聞くにつけ、友誼の深まりが感じられるとともに、国際社会に自分の出来ることで積極的に関わろうとする日本の若者の胎動がしっかりと感じられた。感受性豊かなこの時期にあつて、立場や習慣の違い若者たちの交流が今後とも継続されることで、次世代を担う人材の育成が可能になると確信している。

二〇一二年、来年は日中国交正常化四十周年に当たる節目の年。先人の労苦に敬意を払い、一衣帯水の隣国として、未来思考で交流の新たな水脈ともいべき絆を創っていかねばならない。友好親善の志を持ち、世界に貢献する有為な人材の育成に、この岡山の地から努めてまいりたい。



西安市 学生交流団を迎えて

矢掛町立矢掛中学校

校長 川 上 公 一

西安市学生交流団来町

平成二十三年八月八日から十三日まで、中華人民共和国西安市の中学生・高校生十四名と引率者三名が矢掛町を訪れた。期間中には、旧矢掛本陣や吉備真備公園などを訪問したり「フルーツピア水車の里」でうどん打ち体験をしたりした。西安市の学生は町内の受入家庭で三泊し、それぞれの家庭で日本の生活を体験した。

交流の経緯

矢掛町は国際化の到来を早くから予見し、幼稚園からの英語教育や諸外国との交流など国際交流事業を推進している。千二百年前、吉備真備は遣唐使留学生として長安に赴き、多くの文化を学び多くの文物を持ち帰った。矢掛町では



記念品の交換

この吉備真備公の遺徳を偲び、中国西安市との交流を特に重要視している。西安市との親交は、昭和六十一年西安市に吉備真備の顕彰碑が建立されたことを機に始まった。職員の相互訪問や研修生の受け入れなどを重ねる中で、未来を担う学生の交流の機運が高まってきた。平成十一年には初めて西安市から交流団十八名が来町し、翌十二年には矢掛町から十九名の学生交流団が西安市を訪問した。それ以来、様々な事情で相互訪問が中断することなく現在まで継続してきている。



矢掛中学生によるお手前

矢掛町学生交流団訪中

平成二十二年には矢掛町中学生海外派遣事業として、矢掛町・西安市学生交流団を結成し、八月三日から八月十一日まで十五名の矢掛中学校生徒が訪中した。兵馬俑博物館や城壁を視察した後、市の中心部にある西安市第三十中学において友好親善校提携に調印した。

西安市学生交流団訪日

引き続き平成二十三年には、友好親善校提携の一環として第三十中学の中学生及び卒業生が矢掛町



日本茶を頂く西安の交流生徒

を訪問した。訪問者の中には前年に本校生徒を受け入れた家庭の子女もあり、一年ぶりの旧交を温めることもできた。

八月八日夜一行は関西国際空港に到着し、翌九日矢掛中学校において歓迎式典を開催した。ペナント・記念品交換の後、挨拶・学生の自己紹介・中学校の概要紹介・記念撮影を行った。進行は基本的に英語で行った。中国の学生は、自己紹介を英語でした。矢掛中学校の生徒も国際語としての英語学習の大切さを認識できたようである。



吹奏楽部歓迎演奏



ホストファミリー家庭訪問

式後、交流会を行った。本校からは茶道部生徒による茶道の紹介と実演、体育館でのバスケットボール部との交換、吹奏楽部による歓迎演奏などを行った。その後、中国の学生による答礼としてバイオリンの演奏、民族舞踊の披露などがあった。



ホストファミリーとの交流会

十日と十一日は、ホームステイ家族と行動をとにした。倉敷美観地区や瀬戸大橋の見学、海から離れている西安の学生のための海遊び、屋外で地域の人々も呼んで焼肉バーベキューなど工夫を凝らしていただき友好親善を深めることができた。

十二日は始発の新幹線に乗って東京へ向かう。そのため明け方四時三十分集合場所である。それにも関わらず集合場所の役場にはホー



バスケットボール部との交歓



全員で記念撮影

おわりに

町の積極的な国際交流推進事業は、グローバル化が進む中で自分はどうあるべきかを考え、自分を見つめる絶好の機会を与えてくれる。今後も一層この交流活動を進め、実りあるものにしていきたい。

ムステイ先家族が総出で集まり見送りをしてくれた。短期間ではあるが、思い出に残る交流ができたことに感謝したい。

STUDENT EXCHANGE 今昔

岡山県立総社高等学校

教頭 白 神 敬 祐



大連一中での交歓会

実際に、平成十七年の夏に、この事業の第一回派遣が上海を中心に行われました。実は、幸運なことに、私はその団に引率者として参加する機会を得ました。当時会長であった、黒瀬定生先生を団長として、私を含め英語担当教員二名と十六名の高校生が派遣されま

この種の事業が民間の活力を得て復活したと、とてもうれしく思ったのを覚えていますが。

その後、回を重ねて、今年度が六回目の派遣となっています。今回また引率の機会をいただいたことは、私にとって、誠に光栄なことと思っています。関係の方々に感謝を申し上げます。

この間、黒瀬会長のあとを、岡田浩明会長、続いて門野八洲雄会長が引き継がれ、このプログラムは充実・発展をとげました。例えば、派遣生徒数が十六名から二十

私が、この Student Exchange のことを初めて耳にしたのは、平成十六年度のことでした。当時、私は、岡山県教育庁指導課に勤務しており、外国語（高校）や国際理解等の担当をしていました。かつては、岡山県の事業として、県内の高校生を、岡山県と友好提携を結んでいるオーストラリアの南オーストラリア州に派遣し、南オーストラリア州の高校生を受け入れるという事業がありました。

このうち派遣事業は、財政難等の理由から平成九年から休止され、今も休止されたままです。南オーストラリア州の高校生を招聘する事業はその後しばらく続きましたが、今は休止していると聞いています。

ですから、県の事業としては財政的に難しい事業を、財団法人福武教育文化振興財団の委託を受けて、岡山県日中教育交流協議会が立ち上げられると聞いたときは、



ひょうたん笛いい音出るかな？



中国の琴弾いてみた

名に増員されたことや、プログラム中にホームステイが盛り込まれたことなどです。代々の会長さんの、事業立ち上げのご苦労、拡充のご苦労等があつて、このプログラムは今の姿になっています。もちろん、その影には、福武教育文化振興財団やアジア・コミュニケーションズのご支援があつたことは言うまでもありません。

私は、このプログラムに二回参加させていただき、二回とも感じたことは、生徒たちが素晴らしい経験を積んで、それぞれに成長していったということです。若い時期に、英語、中国語、日本語を駆



英語の模擬授業体験

使しながら、意思を通じさせる経験や異文化の中に自分をさらす経験は、将来、必ず、何らかの形で、生徒に良い影響をもたらす、貴重な体験であると信じています。もうすでに、日本だけに暮らし、日本人とだけつき合っていく時代ではありません。外国の方と気後れすることなく、堂々と意見を戦わせ、妥協点を見つれたり、友好関係を築いたり、お互いに理解し合ったりすることのできる人材の育成が求められています。もちろん、このプログラムを経験した全ての生徒が、海外に飛び出して活躍するわけではないと思います

が、そういった場面に直面したときに、今回の経験は、必ず生きる と確信しています。

この交流を通じて、今回我々の訪問を熱烈歓迎してくださった中国の大連第一中学校の生徒と、岡山県の生徒の間に生まれた友情が末永く続くことを期待しているのは私だけではないと思います。わずか一日のホームステイでしたが、そのときに芽生えた友情は

きっとこれから大きく育っていくものと思います。また、同時に、岡山県の派遣された高校生の間に芽生えた友情も長く続くと思っています。一週間という、短い間でしたが、寝食をともしたものにしかわからないことがあります。いろいろな学校から集まった二十人の生徒たちは、確実に成長しました。彼ら、彼女らの、十年後、二十年後の姿がとても楽しみです。お子様を勇気をもつ



北京万里の長城

て、海外に送り出してください。保護者の皆様も、帰国後のお子様の成長を実感されているのではないのでしょうか。ご協力、ご支援ありがとうございました。

最後になりましたが、改めて、このプログラムに関係の全ての皆様に感謝を申し上げて、私の拙文の結びとしたいと思います。ありがとうございました。

大きな成果、更に交流継続を

— 日本訪問の感想 —

大連第一中学訪問団

団長 王 景 東



岡山県日中教育交流協議会門野会長へ記念の書贈呈

岡山県日中教育交流協議会（以下、協議会と略）との交流協議に基づき、わが校二名の教師が引率して十二名の学生からなる訪問団が十月一日から十月五日まで日本の岡山県で五日間の教育訪問を実施した。これは、本年七月に日本岡山県の高専学校生徒がわが校を訪問し、二〇一一年度の相互交流活動の一環として行われたもので、本校から岡山への訪問は二度目となる。

十月一日、訪日団は岡山県生涯学習センターを訪問し、協議会や高校生らの熱烈的な歓迎を受けた。続いて、わが校十二名の学生はそれぞれのホームステイ先へ向かい、日本の日常生活と民俗風習を理解した。

十月二日、わが校の学生は受け入

れ家族とともに、岡山県内を観光し、ホストファミリーが準備してくれた豊富な活動に参加した。

夜には、協議会の手配により、交歓会を行った。日本の学生は私たちのために素晴らしい歌や踊りを披露してくれた。最後に日中の教師学生が一緒に『中国語で『朋友』を合唱し、日本語で『世界に一つしかない花』を歌い交流会は大いに盛り上がった。夜八時になって、日中高校生は名残惜しみながら涙を流して別れた。

十月三日、午前八時、日

中高校生の相互訪問の資金を提供していただいた福武教育文化振興財団を訪問し、宮野常務理事らの温かいもてなしをいただいた。宮野常務理事は歓迎の意を表した後、わが校に備前焼を、生徒には日英辞典を贈呈していただいた。まじめに勉学に励み、将来日中友好に貢献するよう励まされた。

財団への訪問終了後、訪日団は岡山県朝日高校への訪問を行った。学校では、教師生徒らの熱烈的な歓迎を受けた。朝日高校は一六〇年の歴史をもつ学校で、出身者の中には総理大臣をはじめ日本で影響ある多くの



福武教育文化振興財団を訪問

人物を輩出しており、毎年有名国立大学や私立大学へ多数合格している。郭沫若もかつてこの学校に留学したことがある。訪問団は歓迎式終了後、交流座談会に臨み、日中の学習生活に理解を深めた。また、教室に入り、生物、物理、英語などの授業を受けた。その後、放課後の部活動に参加した。送別会では、朝日高校管弦楽部と舞踊グループが素晴らしい演出をみせてくれた。これは学生レベルでなくプロの水準に近いもので、深い印象を覚えた。十月四日、瀬戸大橋や倉敷美観地区を参観し、

夜には協議会主催の送別夕食会に出席した。会の中で、日中双方は二〇一一年の交流が大きな成果を収めたことを確認し、双方の学生は短時間の間に相互理解が深まり、相互に知り合い、信じあうことができ、大変喜ばしいと感じた。宴席で代表团と門野会長とが来年の交流について協議し、更に豊かな成果を収められるよう期待した。

十月五日、わが訪問団は岡山県での訪問を終え、順調に大連に帰った。今回、日本社会を觀察し日本文化を体験し、日本の教育を研究できたばかりでなく、中国青年と同世代の者が相互理解を深め交流の中で隔たり



岡山朝日高等学校での歓迎式

がなくなり、友情が促進された。交流時間は短かったが、双方の学生の成長にとって深い影響を与えたことと思う。このような交流が更に広がり、更に深く展開し、青年達が今後の仕事や生活の中で日中友好を促進し、日中友好の使者となってくれることを願っている。「耳で聞くのは虚、目で見るのが真実」(*1)と言われるが、この訪問を通じて私たち教師と生徒は日本と日本人に対して新たな認識をもった。日本社会はおだやかで、秩序があり、岡山の環境は静かで清潔、そして日本人の勤勉さと質実、温かい友情、仕事への厳格さ、真面目さ、落ち着きなどを知った。このたびの訪問を通じて啓発を受けた。理性と客観的な思想を導きとし、更に多くの同世代に影響を与え、特殊な時代の産物である「怒れる青年」(*2)という風潮に別れを告げなければならないと思った。同時に、私たちは客観的な観点で中国と日本の差を見て、私たち青年が国家振興の責任を果たし、今後の勉強と仕事の中でさらに努力し、速くその差を埋めていきたい。祖国を強大にするために刻苦奮闘していきたいと感じた。

このたび訪問した者が一致して認識したのは、このような国

際交流は私たちの視野を広め、知識と人生の経験を豊かにし、国際友好交流の能力を養うということだった。可能な限り継続してこのような活動に参加していきたい。

最後に、協議会のご努力と合理的で緻密な手配により、短い四日間の間に豊富な成果を収めることができ心から感謝申し上げます。また、福武教育文化振興財団のご支持により、日本社会を感じる機会を得られたことに感謝したい。さらに、岡山県立岡山朝日高等学校の温かいもてなしにより、日本の教育における科学性、合理性を感じ取ることができた。同時に平井校長先生のご指導のもとに朝日高校の教育が優れており、生徒が自信に溢れ、高い資質・能力を持ち、先生を敬う気持ちがあり、教室の雰囲気も素晴らしいというだけでなく、生徒が打ち解けて楽しい雰囲気と秩序ある管理など、我々はみな朝日高校の魅力を感じ取った。

そして、出迎えから見送りまでお世話いただいた松井三平さんと松岡寛美さんにも感謝申し上げます。数日間の間、至れり尽くせりの気配りと、周到で粘り強いお世話は、私たちが家にいるのと同じような温かい気持ちをもたらしてくれた。二人を



朝日高校管弦楽部歓迎演奏会

通じて私たちは日本人の勤労意欲や、ひたむきな努力を感じ、仕事を敬う精神と高い素質を感じた。帰国後何日か経ったが、いつも二人を思い出し、機会があれば再度交流をし、友人となることを願っている。

(訳責・松井)

(*1・・・中国語で「耳聴為虚、眼见為実」とある)

(*2・・・「憤青」という中国語で、社会への不平不満を主張する青年。反抗期の青年の意味もある。)

旭川荘厚生専門学院

●旭川キャンパス

児童福祉科

第一看護科 第二看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866

電話(086)275-0145

FAX(086)275-3283

●吉井川キャンパス

介護福祉科

福祉研究科

精神保健福祉科

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610

電話(086)944-6911

FAX(086)944-6922



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。
中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース

15週学習を通じて、HSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!

※会社や団体への出張講座、子供向けコース・太極拳コースも開講中!

・お問い合わせ/お申し込みは

岡山商科大学孔子学院 〒700-8601

岡山市北区津島京町2丁目10-1

TEL 086-252-0642(内線521) FAX 086-255-6947

<http://www.osu.ac.jp/koushi/>

新HSK試験5・6級をめざす

長期生コース

中国語講座(2011年度前期)
(2011年4月1日~2011年9月1日, 計20週)

子供向けコース(全15回)
毎週土曜日(11:00~12:00)

太極拳コース
毎週土曜日(14:00~15:00)

学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科)
子ども学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科

●保育学科

●英語コミュニケーション学科

●音楽科

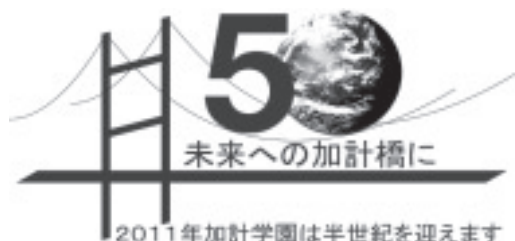
●情報ビジネス学科

●専攻科(介護福祉専攻)
音楽専攻

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993

<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

岡山理科大学附属 中学校 中高一貫コース!



学校法人 加計学園 岡山理科大学附属中学校

〒700-0005 岡山市北区理大町1番1号

TEL: (086)256-8517 FAX: (086)256-8518

学校法人 加計学園 中高入試広報室

TEL: (086)256-8527 FAX: (086)256-8526

E-mail: kouho@ridaifu.ed.jp

愛され続ける価値がある。

kanko®



OZAKIは、(財)全国高等学校体育連盟を通じて学校に係わる体育・スポーツ活動をサポートしています。
(公財)日本中学校体育連盟

共感から感動へ。
ここに響くユニフォーム。



(財)全国高等学校体育連盟協賛
インターハイ協賛



(公財)日本中学校体育連盟協賛
(公財)日本中学校体育連盟シンボルマーク付

尾崎商事株式会社 岡山営業所

〒701-0206 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266

kanko®
カンコーユニフォーム

ELLE

MICHEL KLEIN

Sprinter

Reebok

尾崎商事株式会社

本社 〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町15番1号 岡山リットシティビル5F

OZAKI お客様相談室 **0120-712983**

9:00~17:30 / ただし土・日・祝日は除きます。(携帯・PHSからもご利用頂けます。)

<http://ozaki.jp/>



JQA-QMS119
品質管理(ISO)生産グループ
JQA-EM0693



尾崎商事株式会社本社

赤ちゃんからお年寄りまで
一人ひとりの「よく生きる」のために。



Benesse®

事業領域

国内教育、海外教育、生活、シニア・介護、
語学・グローバル人材教育

くわしくはホームページをご覧ください。

<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社ベネッセホールディングス

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17

東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。

眼鏡医療技術専門学校 ワールドオプティカルカレッジ

2011年も全員就職が内定しました!



多くのスペシャリストを育成する専門学校です

天職が見つかる「学校説明会」

12月17日(土)

2月4日(土)

3月3日(土)

13:30~16:30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布 随時見学できます ◀本校独自の特待生制度 奨学金制度があります▶ 高校卒業生コース(3年制) 短大卒業生コース(2年制)

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11 <http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を習ってみませんか?

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎! ご一報ください。

<費用> 入学金...3,150円(消費税込)

☆協会会員・継続者は免除☆

受講料...31,500円(消費税込)/全24回

教材費...実費(2,000円~3,000円程度)

<申込方法> 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》

岡山中国語センター(岡山市日中友好協会内)

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086)225-5068

E-mail oknittyu@yahoo.co.jp <http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

グループレッスン、個人レッスンの
ご相談にも応じます。
どうぞお気軽に
お問い合わせください。



おかげさまで22周年!

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク!

- 岡山発着航空機の手配いたします!
中国東方航空で上海・大連・北京へ!
大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ!
- お得なパッケージツアー(上海・大連・青島・など)
- 特徴あるこだわりのツアー
シルクロード、チベット、雲南、内蒙古など
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ

ASIA.COM

観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認

岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)

TEL (086) 231-0334 FAX (086) 225-5041

<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第36号

発行：平成23年11月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社